

ヤマト福祉財団 NEWS

ヤマトグループ賛助会員向けニュース(季刊)

発行部数12万部・非売品

YAMATO WELFARE FOUNDATION

No.32

10月20日発行 2011 Autumn

東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金
第一次助成先を訪ねて

[南三陸町・水産業基盤施設緊急復興事業]

人と未来をつなぐ 「海業復興」



南三陸町役場の仮庁舎にて。産業振興課水産業振興係長太斉彰浩さん。



仕事のしくみや組織を変えると考え方や行動が変わる
2011年度障がい者の働く場
パワーアップフォーラム p04

私たちの賛助会費が活かされています
奨学生レポート Vol.6
学ぶことがうれしいから、
実現したい夢があるから…。 p06

私たちの賛助会費が活かされています
■障がい者福祉助成金 助成先レポートVol.12(四万十市)
地域の応援を追い風に5年後、平均10万円を目指す p08

この街で一緒に生きていく 障がい者のクロネコメール便配達
ひたむきに働く姿が、社会を変えていく。 p10

スワン工舎 卒業生訪問9
この夏、社会人デビュー まずは洗い場から、一歩ずつ成長を目指します。 p12

第一次助成先を訪ねて

「南三陸町・水産業基盤施設緊急復興事業」

人と未来をつなぐ「海業復興」
うみぎょう

「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第一次助成先が九つの事業に決定しました。今回はその中の一つ「南三陸町」を訪ね、水産業振興係長の太齋彰浩さんにお話を伺いました。

一刻も早く復旧しなければ
人が、町が消えてしまう

南三陸町はアワビの産地として、またシロザケの漁獲量でも宮城県一を誇ります。カキとワカメの養殖も盛んで、海岸沿いには魚市場や作業場、加工場が立ち並び、活気に満ちていました。そのすべてを地震と津波が奪い去っていきま

した。屋根だけが残された魚市場は、90cmも地盤沈下がり、ここで魚市場を再開できるのはまだ何年も先の見込みです。

「仕事の術を失った漁師や地元の人たちに、仮設でも良いから一刻も早く水産施設を復旧させたい」。そんな思いで国に助成を働きかけていた漁業組合、南三陸町でしたが、大きな問題に直面しました。仮設の市場や作業所では助成が認められにくいこと、さらに100%の援助は不可能、1/3は自己負担に…。これは、すべてを失った南三陸町の人たちにはあまりにも過酷な条件でした。

「なんとかしなければと頑張っていた漁業組合員からも、もうあきらめようという声が出てきました。そんな時、今回の助成の話を知り、とにかく申請してみようとな

りました。助成が決まったと連絡をいただいた時は、正直助かったと思いましたが」と水産業振興係長の太齋彰浩さん。

「実は放流したシロザケ（秋サケ）が9月下旬から志津川に帰ってくるため、タイムリミットが目前に迫っていたのです」。

南三陸町のシロザケの漁獲量は、平成21年度で3722トン、金額で約10億円。この売上げも重要ですが、サケの卵を採り、来年へと放流事業をつなぐなければ、いままでの努力がすべて水泡に帰してしまいます。

「ここでサケ漁を行えなければ、多くの人が町を去ることになるかもしれません。急ピッチで作業を進め、10月にはなんとか仮設魚市場を完成できるところまで漕ぎ着けました」。

一刻も早く復旧の一步をと願う南三陸町の思いは、見える支援・速い支援・効果の高い支援を目指す今回の助成の目的にマッチしていたのです。

水産だけではない「海業復興」
みんなで町の未来を考える

現在、仮設魚市場の他にもサケの加工場、カキの殻剥き場、ワカメ



志津川に帰ってくるサケに合わせ、急ぎ建設が進む「仮設魚市場」



地盤沈下が激しい「魚市場」 土を入れ地盤を上げて元に戻すまで時間が必要

東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金



第1次助成先を決定しました。

「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」の第一回「復興支援選考委員会」が8月24日に開催され、第1次助成先を決定しました。

応募された事業件数27件の中から「具体的かつ、的確で、必然性の高い事業」として、下記の9件の事業を選考し、7月末迄にお寄せいただいた総額約46億円の寄附金の中から約41億円を助成します。

●「東日本大震災復興支援選考委員会」委員

- 委員長…内田和成：早稲田大学大学院商学研究科教授／早稲田大学ビジネススクール教授
- 委員（五十音順）…家田仁：東京大学社会基盤学教授／土木学会副会長（震災担当）、小泉武夫：東京農業大学名誉教授／農学博士、野田由美子：プライズウォーターハウスコーパス株式会社／パートナー PPP・インフラ政府部門アジア太平洋地区代表、林春男：京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授

●第1次助成先

申請団体	事業名	助成金額(単位:千円)
宮城県	海底清掃資材購入支援事業	100,000
宮城県	高鮮度水産物供給施設整備事業	600,000
宮城県	養殖用資機材等緊急整備事業	500,000
岩手県	水産加工事業者生産回復支援事業	1,600,000
岩手県	魚価安定緊急対策事業	403,000
特定非営利活動法人よつくらぶ	よつくら港地域振興施設「交流館」復興事業	180,000
財団法人ふくしま海洋科学館	「アクアマリンふくしま」熱源設備改修事業	80,000
すかがわ岩瀬農業協同組合	農業生産再生事業	255,000
南三陸町	水産業基盤施設緊急復興事業	365,000

●被災地の復興に携わる自治体、公益法人などのみなさまへ

ヤマト福祉財団は「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」における助成事業の応募を受け付けています。1事業への助成は原則として1億円以上、20億円を限度とします。2011年度は合計5次の応募期間を予定しています。

●くわしくは…

ヤマト福祉財団の特設サイト「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」をご参照ください。

<http://www.yamatowf-saisei.jp/>

●お問い合わせは…

公益財団法人ヤマト福祉財団

「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」担当まで。

フリーダイヤル 0120-801024

●寄附金の状況

個人様・法人様合わせて54件、759万1,032円のご寄附をいただき、ヤマトグループからの「宅急便1個につき10円」の寄附68億3,155万7,420円を合わせ、総額累計68億3,914万8,452円となりました(9月30日現在)。
※ 9月1日(木)より、クレジットカードでの寄附受付を開始いたしました。



災害対策本部がおかれている「南三陸町役場」スポーツ・アリーナや工場などが建つ山の上にある



南三陸町 産業振興課 水産業振興係長 太齋 彰浩さん

作業場、塩水取水施設などの建設が進んでいます。震災前に2000艘あった漁船は400艘に減ってしまい、魚を採るだけでなく、ワカメやカキの養殖作業もままならない状況です。今回の助成で漁師の命ともいえる漁船もやっと購入することになりました。しかし、まだまだ漁船の数も施設も完全ではありません。

「このままだと町から人が離れてしまいます。とにかくいまは生活を支える、働く術を確保する、復旧へのスピード感が大事なんです。その上で、復旧を復興に変える方

法をみんで一緒に考えていきたいと思います」。

太齋さんは震災前、自然環境活用センターの職員として、町のこれからの考え、牽引する人材をどう育て活用するかに携わってきました。また、水産業という町の資源を活かし、学校などを対象にカキの殻剥きやワカメの作業などを体験学習できるしくみも作ってきましました。今回の助成事業のプランにも、そのアイデアは取り入れられています。

「生産現場を消費者に体験・見学いただく観光事業が成功すれば、

より多くの人々を町に呼び込み、人とつながり、南三陸町の魅力を広めることもできます」。

太齋さんが描くのは、水産業だけでなく観光を含めた複合的な「海業」による復興です。

「南三陸町の子どもたちが、この町の魅力とは何か、これから町をどうしていくのか、自分たちで考えていかなければ、本当の復興にはなりません。まわり道になるかもしれませんが、それが大事だと思います。この先の未来につながる、そんな人材に育ててほしいと願っています」。

パワーアップフォーラム

2011年度 障がい者の働く場

参加者全員で障がい者の働く場づくりのより良いあり方などを学び、考えていくことを目的とする『パワーアップフォーラム』が、今年も全国各地の実行委員の運営により開催されました。

今年のサブタイトルである「仕事のしくみや組織を変えようと、考え方や行動が変わる」をテーマにした基調講演ではじまり、小倉昌男賞受賞者による講演。さらに「行動につながるシンポジウム」では、工賃アップに向けしくみを変えて実践したシンポジストが成果を報告しました。その中からお二人のシンポジストの事例をここで紹介します。



Ustreamで中継を行った東京会場



震災の報告から始まった藤井克徳氏による「わかりやすい時流講座」(福岡会場)



有富理事長による基調講演(大阪会場)

目標・計画の具体化で 職員と利用者さんの考え方や行動がポジティブに変化

平成19年の就労継続支援事業A型への移行を機に、私たちは大きく変わっていききました。その原動力は「みんなに高賃金を実現したい」という強い思いです。

主力事業の精米事業の売上げを伸ばす営業方法は？ 他にも新しくはじめられる事業は？ と職員全員でアイデアを出し合いました。「良いものを誠実に販売すれば必ず売れる」とポジティブに考え、老人ホームやスーパーでおにぎりの実演販売を行い、その一方で、切り



NPO法人はまゆう作業所 施設長 深瀬幸子さん

干し大根の製造販売も開始していききました。

目標の売上げ達成に向けては、年間の事業計画を明確にし、どの時点までに、何をを行うかを1カ月、1週間、1日単位のスケジュールに落とし込みました。さらに、毎日の達成状況や利用者さんの働く様子を職員が細かく報告書に書くことにしました。この報告書で「利用

者さんそれぞれの得意、不得意がはつきりとなって見えてきたのです。ここで「得意なことをもっと伸ばせる工夫を」と新たな改善がはじまりました。例えば、清掃サービスやお菓子づくりなどの新事業の開始。切り干し大根用の大根栽培数の拡大などもそんな発想からスタートしたのです。

また、一般市場へ参入することなどもどんどん進めています。事業の柱が増えたことで売上げアップとともに職種メニューも多様化し、利用者さんに適した仕事を用意できるようになりました。「計画↓実践↓評価↓改善」のPDCAサイクルが自然にできあがってきたように思います。

A型移行当時は、10~15名だった利用者さんもいまでは40名以上に。「はまゆう作業所を、利用者さんの働く場所、自分が必要とされる場所にする」そんな願いが、着実に形になってきています。





武田 元氏(広島会場)



西澤 心氏(東京会場)



新堂 薫氏(福岡会場)



中崎ひとみ氏(大阪会場)



社会福祉法人ひかり工房
施設長
高井賢二さん

● **自主性を引き出すしくみ**
パンづくりという目に見える仕事は思い切って利用者さんに任せることに。「寄り添う」から「任せろ」へと職員の意識改革を行いました。目に見えないマネジメントなどの仕事に職員が集中することで、仕事全体の質が向上しました。

● **連携するしくみ**

市場競争に勝ち、売れるパンをつくるには、味も見た目も重要で

売上げ6000万円を目標に、利用者さんと職員が一丸となりパンの製造販売に頑張ってきました。今年何とか目標を達成できそうです。振り返ってみると次の「四つのしくみ作り」が、この成果につながったのではと考えています。

**A型移行を目指し
売上げアップを実現した4つのしくみづくり**

◇
…いまではちよつとしたアクシデントがあつても、利用者さん自

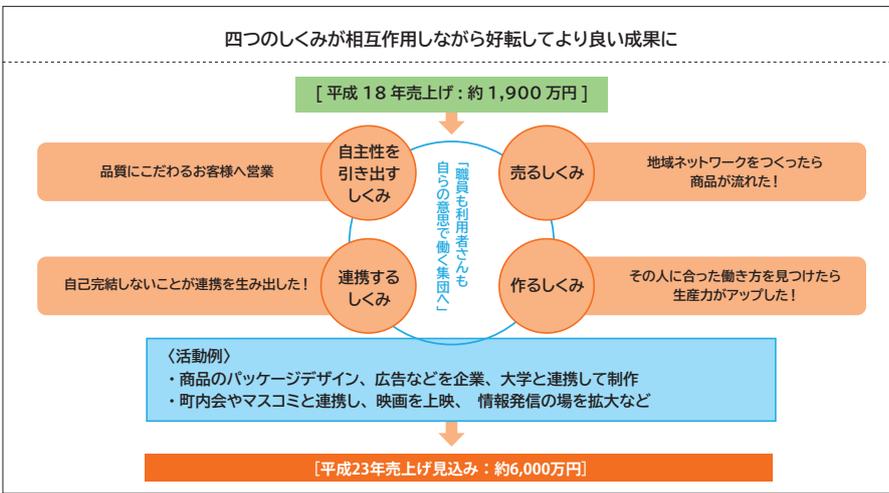
◇
「適材適所、そして適時間を配慮し、利用者さんそれぞれが無理なく働けるしくみをつくることで、量、スピード、質の3点で生産性がアップしました。」

● **作るしくみ**

「地域ネットワーク」こそ何より頼もしい売るしくみです。地元の後援会に協力をいただきながら「地域に愛されるブランドとしての定着」を目指しています。

● **売るしくみ**

「地域ネットワーク」不足。そこで「自分たちだけで完結しない」発想に転換しました。いまでは地域、企業、大学と積極的に連携し、多くの成果を生んでいます。



らで判断し、積極的に仕事を進めるようになりました。「自らの意志で働く集団」へとたくましく成長してきたと実感しています。



シンポジストによる実践報告と、ディスカッションで進める『行動につなげるシンポジウム』(写真左が東京会場、右が大阪会場)



各会場で物産展の販売場所が設けられた(写真左から福岡会場、大阪会場、東京会場)



会場からも積極的な意見が

取材される側から、する側へ。
スポーツの持つ魅力を

すべてのひとに伝えたいから



中学1年生のとき、プールの飛び込み事故により頸椎を損傷。高校で入学した特別支援学校で障がい者スポーツ(ボッチャ)に出会う。現在、BC4クラスで日本第4位にランキングされる一方で、メディアのプロを目指し東京情報大学に在学。競技者と大学生としての生活を両立する日々。

■ 出会いはむしろ嫌々…

「不都合があれば、すぐに対応して下さるので快適な学生生活です」と語る藤井さんは、東京情報大学で情報文化学科を専攻する2年生。映像制作やウェブデザインなど、メディア・クリエイターになるための勉強に励んでいます。そんな彼にはもう一つ、有望なアスリートとしての顔があります。

12・6m×6mのコート。張り詰めた空気のなかで270gのボールを慎重に放ります。ジャックボールと呼ばれる玉にいかにか近づけられるか……。たったの一投で一発逆転もありえるパラリンピック公式種目へボッチャ、期待の若手プレーヤーです。

「最初は嫌々始めたんですけどね。(笑) このボールだって、まともに持つこともできなかつたですし」と、始めたころを振り返る藤井さん。今は週3日

の練習を欠かしません。

藤井さんは小さいころから体を動かすことが大好きなスポーツ少年でした。得意の水泳ではいくつもの大会で入賞をするほど。しかし中学1年の夏、飛び込み事故で頸椎を骨折。以後、車いすの生活となりました。やがて特別支援学校高等学校へ入学し、ボッチャと初めて出会います。



緑がたっぷりのキャンパス、サークル棟の前でお話を伺いました。

学ばないことが嬉しいから、
実現したい夢があるから…。



『自分が撮られる側から撮る側へ、障がい者スポーツを広めていくためにこの大学に入った』と力強く話してくれました。

キャンパスで自分の可能性を試す奨学生のみなさんを、私たちは応援しています。

障がい者奨学金制度
障がいのある大学生を支援する目的で当財団は奨学金を受け付けています。審査のうえ、37名の方が年間60万円（返済不要）の助成を利用しています。

私たちの賛助会費が活かされています 奨学生レポート

Vol.6

■ 甦ったスポーツ少年

ボッチャは重度脳性麻痺者や同程度の四肢重度機能障がい者向けにヨーロッパで生まれた、カーリングによく似たスポーツです。身体機能の程度によってBC1〜4まで四つのクラスに

分かれ、個人選も団体選もあります。藤井さんは現在BC4クラスで日本ランキング4位。同クラスでは世界的に見ると、ブラジルが強豪国です。「本格的にボッチャをやるようになったのは高校2年のときです。『ボッチャの全国大会をや

ってるから来てみないか』って先生に言われて……」

生来の運動センスの良さで地道なトレーニングが結びついたのでしよう。翌年には国際大会（東京2009 アジアパラユースゲームズ）に参加し、なんと3位入賞を果たします。



前年夏開催の日本選手権で、上位に入賞した選手だけが出場できるジャパンカップ。藤井さんは2011年国内最高峰の大会(BC4クラス)で全国制覇を果たしました。(写真提供/ワッホー!)



2011年9月24～25日に開催した第16回千葉ボッチャ選手権大会。藤井さんは3試合行われた決勝リーグ(BC4クラス)で全勝優勝しました。



2010年7月に開かれた第12回日本ボッチャ選手権大会で、優勝した藤井さん。前年の東京2009アジアユースパラゲームズ日本代表としてのプレッシャーをはねのけました。(写真提供/ワッホー!)

■ スポーツという名の「ちょっとした魔法」

「初めてのメダルに勇気が湧きました。すぐくうれしくて、帰ってもずっと握りしめていました。水泳のメダルでもそんなことはなかったんですが(笑)」

ボッチャは、藤井さんに多くの変化をもたらしました。「頭とメンタルを使うスポーツなので、集中力というかメンタル面では強くなったんじゃないかと思えます。それと仲間がたくさんできました。ボッチャをやることでいろんな方との巡り合いが増えましたね」

進学当初は映像志向でしたが、2年生に入って受講したサウンドデザインで耳の良さを誉められ、最近では音響にも強い関心を抱いているそうです。アスリートとしての目標は、2016年のリオデジャネイロ・パラリンピック。狙うは「それはもうもちろん金メダル、地元ブラジルに勝つての優勝です」ときっぱり。

ボッチャを通じて、藤井さんの世界はますます広がっていきそうです。

「撮られる側じゃなく取材する側に回って、ボッチャに限らずテニスとかバスケットなど、障がい者スポーツの素晴らしさについて、もっとみんなに紹介したいなと思っただけです」



主に情報文化学科の授業を行う総合情報センターに設置されている本格的なスタジオ。耳の良さを誉められ、最近では音響にも強い関心を抱いています。

私たちの賛助会費が活かされています ■ 障がい者福祉助成金

助成先レポート

Vol. 12

地域の応援を追い風に

5年後、平均工賃10万円を目指す

（社福）幡多手をつなぐ育成会
福祉工場「中村」
就労継続事業多機能A・B型



福祉工場中村の入口で車を囲んでみなさんと記念写真、左端が浜町執行委員。

地域一体となった横のつながりのネットワークを活かし、営業努力を続ける福祉工場「中村」。縫製仕上げ部と洗濯部の2事業を核に、市役所での仕事をはじめ、さらなる信頼と事業の拡大を目指しています。

新しい車に笑顔を乗せて

四万十川下流の四万十市、住宅と畑に囲まれた自然豊かなところにある福祉工場「中村」。もともとは「中村ソーイング」という障がいのある方の雇用に力を入れていた縫製工場の一部門でしたが、

平成22年に経営移管され「社会福祉法人幡多手をつなぐ育成会」となりました。

「私たちの事業の柱は、周辺の縫製工場から受注しているシャツやブラウスの仕上げ作業です。他にも市役所での清掃、アメニティ作業も行っています」と理事長の

中平正宏さん。

市役所の仕事をはじめたのは、四万十市の庁舎が新しくなったことがきっかけでした。施設と企業が仕事を分け合って働けるように」という市の方針で、福祉工場「中村」は、ワンフロアの清掃業務と全階にお花を活ける作業を担当。他にも広報が配布する書類などを梱包する仕事も月1回ほど行っています。

市役所の仕事は、毎日お花や花瓶などを車に積み込み、4人のチームで通っています。この車を助成金で購入しました。

信頼を積み重ね、横のつながりで仕事を開拓

「この車を使って、来年度には市役所で信書便配達の仕事もはじめたい」と施設長の山沖美枝子さん。市役所からは、施設からの提案は積極的に検討します、と声をかけられました。現在担当する梱包の仕事で実績と信頼を積み重ね、信書便業者の資格を取得でき次第、



四万十市役所の受付から各階のお花を活けたり水やりを行うアメニティ作業（B型）就労訓練のメンバー8人が交替で担当しています。



※福祉工場とは、働く意欲や能力があるにもかかわらず、一般企業での雇用が困難な就業できない障がいのある方に就労の場を提供する施設。福祉的雇用ではありませんが、きちんと雇用契約を結んだ従業員になります。

小さなことでも 私たちにできることを はじめていきたい



● 四国ヤマト運輸労働組合高知支部 四万十エリア執行委員 浜町寿信さん

今回、利用者さんと一緒に仕事を体験させていただき、仕事の丁寧さ、手際の良さに驚かされました。そんな仕事ぶりを見ているからこそ、お客様も利用者さんをプロとして自然に扱っているのだと感じました。

プライベートの話ですが、私の周りに軽度の障がいのある者がいます。本人もその友人たちも、障がいというものをまったく意識することなく、ごく当たり前に接しています。そんな姿と今回お会いした利用者さんの働く姿が重なって見えました。

高知主管の親睦会では、誕生日の者にプレゼントを贈っていますが、今年は「スワン工舎の商品」を贈ることになりました。小さなことかもしれませんが、今後も私たちにできることを少しでも増やしていきたいと考えています。



縫製仕上げを事業のメインとするA型(雇用契約)では18人のメンバーが働いています。



市役所のワンフロアの清掃を担当、手順良く仕上げていきます。

配達の仕事在市役所に提案する予定です。
福祉工場「中村」は、5年後にはB型の平均工賃約1万6000円を3万5000円に、A型の平均工賃約6万9000円を10万円にする目標を掲げました。
目標達成には、柱である縫製部

の仕事をちょっと増やさなければなりません。そこで日頃仕上げるの仕事をお願いしている企業の横のつながりを活かし、他県にも営業に出かけるなど、仕事を広げる努力を続けています。
市役所、地元企業、地域住民のみならず、地域一体となって応援

仕事の分業化と 目に見える達成感を

してくれ、そんな追い風を受けて頑張っています。

売上げアップには、生産性の向上も重要。福祉工場「中村」では、利用者さんが無理なく働けるしくみ、自分の能力を存分に発揮できるしくみづくりもいろいろと工夫しています。縫製仕上げの仕事には、糸切り、糸くずやケバ取り、襟、袖、たみ、袋詰めなどの工程があります。一般企業ではすべて一人の職人が行いますが、ここでは大きく八つの工程に分け、利用者さんの得意・不得意など適正に応じて分業します。「得意な仕事だけを集中して行う」ことで生産効率も上がってきました。



理事長の 中平正宏さん



施設長の 山沖美枝子さん

各人の目標枚数を決め、一枚できるごとにボタンを押す「数取り機」というユニークな機械も採用しています。作業の成果が目に見えることで、達成感とともに利用者さんのやる気も変わってきました。利用者さんの仕事に対する意識を高めるため、一般の縫製工場などをお願いしてプロの仕事を見学

に行くことも。

「いままでヤル気があまり見られなかったある利用者さんが『僕はドンブリの中にいるだけだった』という言葉を言ったんです。それからは、見違えるほど意欲的に変身したんですよ」。
縫製のプロ、清掃・アメニティのプロへと成長していく利用者さん。福祉工場「中村」の5年後の姿がいまから楽しみです。



この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

ひたむきに働く姿が、 社会を変えていく。

運河の街として観光客を集める北海道小樽。その中心地から、車で約10分。冬には凍結して、車も上れなくなるくらい急な坂道のある場所が、「マイウェイ」のメール便配達地域です。交代で従事しているメイトさんは、8人。365日、お正月も休みませんと、楽しそうに話してくれた北のメイトさんたちを訪ねました。



急な勾配の長く続く坂道を、歩いて配達する川村道吾さん。もう約3年のキャリアです。最初は不安もありましたが、挨拶もできるようになったと話します。「すべて配り終えて、持ち戻りがないときに充実感があります」



道が凍結したときに、滑り止めとして撒く砂が入っているポスト。街のいたるところに設置されています。

「マイウェイ」は、さまざまな就労経験（トレーニング）を通して、障がいのある人が就労し、自立するサポートをしています。

クロネコメール便配達は、就労に不安を持っている人のまず第一歩として、始められました。今から約3年半前のことです。「街に出て仕事をすることが、就職するための重要な



センターでの仕分け風景。新しい端末の説明を真剣に聞きます。仕事場に出勤するメイトさん、初めてのメイトさんも多いのですが、すべてと仕事をこなしています。

なトレーニングになると思ったからです」と「マイウェイ」管理者 浦部祐夫さん。

スタートするまでには、半年ほどの配達エリアの待ち時間がありました。しかし、話を聞いたメイトさんの一人が、自分のエリアを譲ってくれたそうです。それからさらにもうひと地域を譲り受け、今では少し離れた2つのエリアを担当。1日約100冊程度を、2、3名のメイトさんと配達しています。

冬は、基本長靴で。雪が深く積もると、ソリで配達することもあるそうです。こうした北海道ならではの厳しい条件の中、全員で8名のメイトさんがメール便配達を続けています。希望者が多いため、休みの日をつくらず、交代制で365日、お正月まで配達をしているそうです。

●札幌主管支店 小樽東センター

面積45.3Km²／人口17,566人／世帯数32,666世帯

●社会福祉法人塩谷福祉会 就労支援多機能型「マイウェイ」

精神に障がいのある方など18名所属。 就労移行支援事業。
2007年11月メール便配達開始。 現在メイトさんは8名。
他にも地域の企業に依頼して、就労スキルを養うサポートを展開。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」

参入施設数 329施設 従事者数 1,335人 (2011年8月現在)

お問い合わせは…… (公財) ヤマト福祉財団 メール便担当

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

<http://www.yamato-fukushi.jp/>

自分の仕事だと言って、誇りを持つように。

「ここまでは、大変なことがいろいろありました」と浦部さんは笑



始めて2年8ヶ月になる石川勇さん。誤配しないよう表札をしっかりと確認して配達するようにしていると言います。「最初は一人で配達するのが不安でしたが、今は楽しいです」



メール便を手渡しする月原由香さん。方向音痴で困ったそうですが、今はちゃんと地図を見られるようになったと笑います。「きつい坂は避けてきましたが、「これからトイレしてみよう」と思っています」

います。凍結した道で転んだ人、迷った人、地図を見ながら歩いていて、溝に落ちた人もいました。「最初は、地図の配達場所に付せんをつけていたんですが、追いかけると、歩いたとおり付せんが落ちていたこともありましたよ」

しかし、「働くことに望みを持ってなかった人が、自分の仕事だと言って誇りを持つようになりました」と浦部さん。地図を読めなかった人が、迷わなくなったり、体調が悪かったのに、働いているうちに良くなったり。冷える日のトイレの問題も、月日を重ねるうちにだんだんと慣れていったそうです。

メイトさんの月原由香さんは、「最初は人と会うのがイヤでした。でも、「苦労さまとか、暑いのに大変だね」とか声をかけられると、だんだんそれがうれしくなりました」と楽しそうに話してくれました。

みんなを見てみると頼もしくなると、職員の坂東武志さん。「自分はできるんだと思う、次の可能性が引き出されるんです」

「施設は、障がい者を安全な場所です保護するという考えに陥りがち。でも彼らを見ていると、障がいがあっても、街で働くべきだと思います」。意識を

変えなくてはいけないのは、私たちの方かも知れないと浦部さんは話します。

一生懸命に働いている姿が、理解を生む。

実は浦部さんが、いちばん辛いことと言って、話してくれたことがありました。

小樽は古い街で、人々の感覚も保守的です。障がいのメール便配達には、最初は理解されにくかったそうです。そして今も、ある2件のお宅には、センターに頼んで、代わりの人に配達してもらっています。そのことが、ヤマト運輸にも申し訳なく、そして辛いと浦部さんは言います。

「でも今は、地元の99%の方が理解し、受け入れてくれるようになりました。それは、彼らの一生懸命に働く姿が、勝ち取ったことだと思っ



配達をサポートする「マイウェイ」管理者の浦部祐夫さん(右)。初期のメンバーからもう4人が、就労したそうです。「そばでサポートしていると、彼らの仕事に対してのひたむきさが、よくわかります」「最初はできなくても、できる方法を探せばできるんです」と力強く話してくれました。

ています」

坂東さんも「街に出て、真剣に仕事をこなしている。こういう姿を見て、社会の方が変わっていったんです」と話してくれました。

メール便を愛してくれている。

「マイウェイ」のスタート時の担当者だったのは、札幌主管支店 メール便営業課 新家文雄課長。「初めの頃の人が、もう就職をしたという話を聞いて、とてもうれしい」と喜びます。「最初、話をしに行く、とても真剣に聞いてくれて、これなら大丈夫だと思っていました」

沢森豊 小樽支店長は、「ここ半年、誤配がまったくありません。大事に扱ってくれている。メール便を愛してくれているんだあと感じます」と話します。北海道支社 中嶋啓介主事も、「誤配がないよう、地図がすりきれれるほど見てくれてます。メール便1冊1冊に魂を込めてやってくれているんですね」と、彼らの真剣な仕事ぶりに感謝します。

北海道の厳しい気候や、地元環境にも淡々と向き合い、ただまじめに自分たちの仕事を続けていく「マイウェイ」のメイトさんたちと職員。地域で一番高い坂道を上ったとき、浦部さんが「メール便はここから始めたんです」と感慨深げに話し出しました。配達するのはさぞ大変だろうと思えるその場所からは、北



前列左から/田中雄司さん(仮名)、月原由香さん、石川勇さん、川村道吾さん、高橋哲也さん、札幌主管支店メール便営業課 新家文雄課長、中列左から/諸岡しずかさん、川原久尚さん、佐藤司さん、原林つくみさん、マイウェイ管理者 浦部祐夫さん
後列左から/職員 坂東武志さんと北嶋信哉さん、札幌主管支店小樽支店 沢森豊支店長、北海道支社 中嶋啓介主事、札幌主管支店メール便営業課 上村恵子係長、ヤマト福祉財団 加藤勇男事務長

海道三大夜景で知られる天狗山がよく見えます。

「長く入院生活をした後、勇気をふりしぼってメール便配達を始めた方がいました。その方は結局体調が良くならず辞めてしまいましたが、一緒に配達を始めた日、ここから天狗山を見て『外を歩くなってこんなに気持ちのいいことなんですね、初めて知りました』と言ってくれたのです」「僕にとってここは、いつも始まりの場所です」

小樽の街を見下ろすその場所には、かいた汗を心地よく感じさせる爽やかな風が吹いていました。

スワン工舎卒業生訪問 9

この夏、社会人デビュー

株式会社ナチュラルポークリンクさま

まずは洗い場から、一歩ずつ成長を目指します。



きれい好きな鎌形さんは特性を生かし、精肉加工工場に就職を果たしました。採用した工場にとっても初めての障がい者雇用です。戸惑いを乗り越えて、絆を深めあう職場を訪ねました。

工場長の坂間雅貴さんと鎌形翔太さん

■ヤマト自立センター スワン工舎新座 障がい者の自立と社会参加を目的に、就労支援に取り組んでいます。業務訓練のみならず就労先の開拓、就労後も継続される手厚い定着サポートが、大きな特長となっています。

■株式会社ナチュラルポークリンク 1965年に諏訪精肉店として埼玉県朝霞市に創業。1998年に小売から総合肉食卸に業態を変更。現在、県下に2工場を構え、首都圏の小売店・飲食店・病院等に1日約2tを出荷している。



鎌形翔太さん

株式会社ナチュラルポークリンク 新座工場(平成23年7月19日入社)
会社に来るのが楽しいです。いまは洗い物の仕事をしていますが、「肉刺し」の仕事もできるようにになりたいです。つぎのお給料が出たら、南入曽の鉄道車両基地(埼玉県)に行きたいです。

それは両者にとって
挑戦の始まり

大の鉄道好きという鎌形さんはこの夏、大井川鐵道をお母さんと旅行しました。念願の蒸気機関車SL「C108」に乗ったと自慢げに話します。それは初めて手にした給料で叶えた旅でした。

昨年3月に特別支援学校を卒業してスワン工舎に入所。ペーカリー部門でトレーニングに励みました。そして今年7月、約2週間の実習期間を経て株式会社ナチュラルポークリンクに正式採用されました。精肉加工工場毎日4時間、週5日、パットやトレーなどの洗浄を担当しています。取材に伺ったのは採用されてまだ1カ月というところ。多くを学びながらの状況ですが、周囲の方の指導に心惹かれて、明るく仕事に励んでいます。

「彼の採用について現場に意見を求めると賛否はちょうど半々。ならばともかく一歩を踏み出してみようと決断しました」と語ってくださったのは代表取締役の諏訪



株式会社ナチュラルポークリンク
代表取締役 諏訪秋彦さん

「彼は絶対、誰かがフォローしなければいけません。生産性から言えば厳しい面もありますが、自然と社員同士の助け合いが活発になり、よりよいチーム、企業に成長できるのではないかと期待しています。」

『小さい企業でも障がい者雇用は十分できるよ』ってこの証明に自分たちがなれるよう、頑張っていきたいと思えます」と、力強い言葉をいただきました。

秋彦さん。

「うちは社員20名程度の小さな会社です。全員が精鋭プロフェッショナルでないと利益が出ませんし、これまで障がい者を採用した経験ありません。受け入れるならそれこそ、一先うちで面倒を見る覚悟がいると思えました。さいわいスワン工舎がジョブコーチとして採用後も随時、相談に乗ってくれるという。親御さんも一生懸命でした。その信頼感を支えに採用を前向きに考えました」

根気のいる職場ですが、独り立ちできるような時に厳しく見守っていきたくて言います。





埼京主管支店では、ベース作業などの内容を障がいのある社員がご説明しました

就労後も、ずっと支援し 続けられる体制を

細川厚生労働大臣（当時：以下同）が最初に訪れた『ヤマト運輸（株）埼京主管支店』では、多くの障がいのある方が働いています。その仕事振りを視察された後、障がいのある社員とヤマト運輸労働組合の代表者を交えた懇談会

に出席されました。現在、障害者雇用促進法において、企業は雇用する労働者の1・8％に相当する障がいのある方の雇用が義務付けられています。埼京主管支店は、その数値を超えています。ですが、グループ内には満たせていないところもあります。しかしクローネコメール便の配達など、施設単位に発注する仕事は積極的に進んでいます。直接雇用では一部の人が働く場を提供できませんが、下請け契約ならより多くの障がいのある方に働く機会を増やすことができます。ところが下請け契約は、雇用率に反映されていないのが実状です。"もっと働く機会を"と願う施設と利用者さんの要望に応え続けていくためにも、労働組合では連合に雇用率算定方法の改善を働きかけていることを、細川厚生労働大臣にお伝えしました。



クリーニング工舎で訓練に励む利用者さんの様子をご覧になりました

就労するだけでなく 定着することが大事

次に訪れた『スワン工舎新座』で、クリーニング工舎とパーカーリー工舎での就労訓練を視察された細川厚生労働大臣は、利用者さんとスワン工舎職員との懇談会にも出席されました。スワン工舎が行う就労移行支援事業では、訓練期間は2年間と

決められています。しかし、せっかく就労したのに辞めてしまつては意味がありません。「重要なのは、就労後の定着です。スワン工舎を卒業後も約半年間は定着支援を続け、利用者さんが長く働けるようにフォローしています」と職員が大臣に説明しました。

就労後の定着支援に 援助を

訓練期間の2年間は施設に運営資金として給付金が支給されることになっています。スワン工舎は通常の2年間より早く、平均



スワンパーカーリーでは、お客さまとしてパンを購入されました

15カ月で就労につなげているので、その分早く給付金の支給は終わります。さらに収入の裏付けがなくなつた後も、仕事をこなせているか、職場になじめているかなど、半年の定着支援を続けています。これでは施設の運営が次第に行き詰まってくる。"せめて就労後の定着支援を行っている半年間だけでも給付金が支給されれば、安心してケアに打ち込めます"と道祖土常務理事が現在の状況を伝えました。細川厚生労働大臣は、こうした実状にも耳を傾け、今回の視察を終えられました。



スワン工舎のメンバーと一緒に

ヤマト運輸（株）埼京主管支店 スワン工舎新座 細川厚生労働大臣が視察に訪れました

細川律夫厚生労働大臣が、7月1日「ヤマト運輸（株）埼京主管支店」と「スワン工舎新座」を訪れました。埼京主管支店では障がいのある方の働く姿を、スワン工舎新座では、就労に向けて訓練に励む姿などを視察されました。

夏のカンパより4600万のご寄付をいただきました

第65回ヤマト運輸労働組合定期中央大会が9月15日に新潟県で開催。その中で「夏のカンパ」の贈呈式が行われました。今年もヤマト運輸労働組合をはじめヤマト労連で集められた夏のカンパ7340万円から4600万円のご寄付をいただきました。



お礼のあいさつに立った有富理事長

贈呈式であいさつに立った有富理事長は、東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金の第一次助成先が決定したことをご報告し、夏のカンパも含めて運営資金となる財団事業のパワーアップフォーラムや奨学金助成について紹介しました。

中でも作業所に対する助成事業について有富理事長は「設備の充実などに向けていた助成の考え方を変

ヤマト運輸労働組合第66回定期中央



え、今年から『助成をすることで生産性が上がり、その施設に通う利用者さんの給料が増える』という事案に対して助成を差し上げることにしました。成功体験をたくさん作ることで、全国6000の施設の平均工賃1万2000円があがっていくことが目的です」と説明。財団の事業は進化しながらいろいろな形で展開していくことを約束し、お礼の言葉を締めくくりました。

こんな年だからこそみんなで一緒に『スワンのクリスマスケーキ』

いろいろなことがあった2011年だからこそ、クリスマスにはスワンのケーキを囲んで、家族の絆、人と人の絆の大切さを確かめ合っていただきたい…。そんな願いを込めて、今年のスワンのクリスマスケーキには、ヤマトグループの復興支援全社スローガン『みんなで一歩前へ』を飾りに使用しています。

色とりどりの7種類のケーキと伝統菓子をラインアップした今年のスワンのクリスマスケーキ。乳・卵・小麦粉を不使用のケーキは、四つの味を楽しめるかわいいケーキセット「ハッピージュエリー-KOMEKO」になってリニューアル登場。定価も昨年よりお求めやすく500円値下げでご用意しました。ヤマトグループ社員、作業所さん



ハッピージュエリー-KOMEKO



にはさらに割引のシステムもあります。

ご予約いただいたすべてのケーキはご自宅までお届けいたします。

- 作業所からもご予約できます
(株)スワン本部 担当:藤野まで
TEL:03-3543-1067
ホームページ <http://www.swanbakery.jp/>



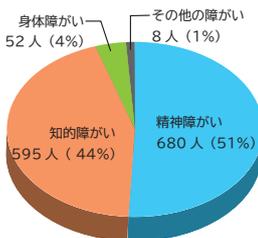
スワンのクリスマスケーキ1個につき10円を寄付いたします。

※寄付金はすべてヤマト福祉財団の「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」を通して被災地支援に充てられます。

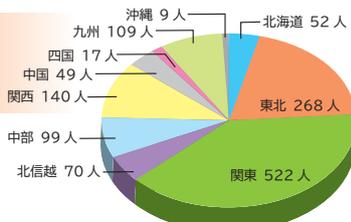
障がい者施設向けクロネコメール便
配達実績報告システムが
動き出して1年になりました

クロネコメール便配達事業に参入している施設のご協力をいただき、配達従事者数や従事日数、配達冊数などさまざまなデータを集計するシステムが動き出して1年になります。2011年8月現在で329施設が参入、障がい者のクロネコメイトさんは1335人となっています。主な集計結果は以下の通りです。

メール便配達従事者
障がい別内訳
2011年8月現在



メール便配達従事者
地域別内訳
2011年8月現在



クロネコメール便配達事業新規参入施設(2011年7月～9月)

福祉工房「ゆーとぴあ」(鹿児島県鹿屋市)、障害者就労継続支援A型いぶきの風(神奈川県横浜市戸塚区)、精神障害者小規模通所授産施設りんごの木(神奈川県横浜市戸塚区)、コミュニティカフェ鳥の歌(新潟県新潟市中央区)、障がい福祉サービス事業所おほり苑(福岡県福岡市中央区)、特定非営利活動法人フレンドハウス(徳島県小松島市)

南相馬ではじまりました
福島県の作業所の仕事おこし
『つながり∞ふくしま
カンパッジ製造販売』

東日本大震災で受けたダメージはあまりにも大きく、福島県内の多くの作業所が、いままでのように仕事を確



写真はひばり就労支援作業所のみなさん。
早くて正確な仕事に脱帽です



震災復興を祈って
今年もふくしねぶたが参加しました
～8月4日 青森ねぶた祭



「ランテア」の声を響かせ、ボランティアの祭りに参加した障害者たち

健常者、障害者「心一つ」

ふくしねぶた 450人満喫

青森
障害者とボランティアが相互の交流を深める「ふくしねぶた」が4日夜、青森ねぶた祭のヤマト運輸ねぶた実行委員会の運行に参加した。ハネットの衣装を身にまとった障害者約450人が震災復興を祈りながら、「心一つ」に祭りを楽しんだ。
(岡村理恵子)

2011年8月6日 東奥日報

保・再開できない状況にあります。中には作業所そのものを開所できないところも…。そこで『つながり∞(無限)ふくしま』の旗印のもと、南相馬市の八つの作業所が力を合わせ「南相馬ファクトリー」を結成し、仕事おこしのために「カンパッジの製造販売」を開始しました。バッジに描かれたイラストは、利用者さん、職員によるもので、南相馬ファクトリーではカンパッジ販売への協力を全国の施設などに呼びかけています。

ヤマト福祉財団では、この事業に緊急助成金を送りました。

- カンパッジ販売に関するお問い合わせ先は
南相馬ファクトリー
福島県南相馬市原町区上高平字中里430-2
(えんどう豆内)
TEL/FAX 0244-23-4177
<http://minamisoma-fc.jugem.jp/>
メール endoumame@mac.com



レオナルド・ダ・ヴィンチ《ほつれ髪の子》緑土、アンバー、鉛白、板
1506～08年頃 パルマ国立美術館蔵 東京展のみ出品



レオナルド・ダ・ヴィンチ 《衣紋の習作》
テンペラ、鉛白、亜麻布 1470-75年頃 バーバラ・ピアセッカ・ジョンソン・コレクション財団蔵
©Barbara Piasecka Johnson Collection Foundation



レオナルド・ダ・ヴィンチと弟子(名譽監督カルロ・ペドレッティ氏説) 《岩窟の聖母》
油彩、キャンヴァス 1495-97年頃 個人蔵
©Private property in trust of The Pedretti Foundation, Los Angeles



Information of the Art

レオナルド・ダ・ヴィンチ 美の理想

静岡展 開催期間▶2011年11月3日(木・祝)～12月25日(日)
休館日▶月曜日
開館時間▶10時～19時(展示室入場は閉館の30分前まで)
開催場所▶静岡市美術館
・静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3階、JR静岡駅から徒歩3分
入館料▶一般1400円、大高生・70歳以上900円、中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および必要な介助者は無料
主催▶静岡市、静岡市美術館 指定管理者(財)静岡市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送、毎日新聞社
問い合わせ先▶静岡市美術館 Tel.054-273-1515 <http://www.shizubi.jp>

福岡展 開催期間▶2012年1月5日(木)～3月4日(日)
休館日▶月曜日、※ただし1月9日(月・祝)は開館、10日(火)が休館
開館時間▶9時30分～17時30分(入館は閉館の30分前まで)
開催場所▶福岡市美術館
・福岡市中央区大濠公園1-6
入館料▶一般1300円、大学・高校生1000円、中学・小学生600円
主催▶福岡市美術館、毎日新聞社、RKB毎日放送
問い合わせ先▶毎日新聞福岡本部事業部 Tel.092-781-3636

東京展 開催期間▶2012年3月31日(土)～6月10日(日)
休館日▶4月23日(月)のみ休館
開館時間▶10時～19時
毎週金・土曜日は10時～21時(入館は各閉館の30分前まで)
開催場所▶Bunkamuraザ・ミュージアム
・東京都渋谷区道玄坂2-24-1
入館料▶一般1500円、大学・高校生1000円、中学・小学生700円
主催▶Bunkamura、毎日新聞社、テレビ朝日
問い合わせ先▶ハローダイヤル Tel.03-5777-8600 <http://davinci2012.jp>

万能の天才が紡いだ奇跡
ルネサンスの巨人レオナルド・ダ・ヴィンチ(1452-1519)。その生涯から来年は560年を迎えます。彼は67年の生涯を通じ、彫刻、建築、土木、解剖学、科学技術といったさまざまな分野において膨大な手稿を残しました。

日本初公開の作品が目白押し
本展はダ・ヴィンチ研究の世界的権威の監修のもと、ダ・ヴィンチの生み出した「美の理想」に迫らんとする意欲的な試みです。世界各地から集めた日本初公開のダ・ヴィンチ作品、弟子との共作、レオナルド派と呼ばれる画家たちや同時代の画家たちの作品、書籍や資料など貴重な約80点で構成された「万能の天才から連なる「美の系譜」を紹介いたします。本展の美術品取り扱いにヤマトロジスティクス株式会社が協力しています。

ヤマト福祉財団全国支部連絡先(ヤマト運輸(株)内)

支部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤房男	TEL. 011-891-5040
東北支部	小原 守	TEL. 022-374-8065
東京支部	小澤秀好	TEL. 03-5564-3705
関東支部	碓山 明	TEL. 045-508-6106
関東支部東地区	平井 忠	TEL. 043-259-7364
北信越支部	南雲真一	TEL. 025-231-9512
中部支部	矢野静香	TEL. 052-725-3633
関西支部	石田久雄	TEL. 06-6682-8570
中国支部	竹下憲雄	TEL. 082-849-1451
四国支部	長船利宏	TEL. 0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL. 092-931-3310
沖縄支部	佐渡山一郎	TEL. 098-840-3605

新事務長に就任しました。
よろしくお願いいたします。



関東支部
碓山 明



読みやすさを追求した書体



アメリカ大豆協会認定の大豆油インクを使用しています。